

●肥前陶磁の歴史

肥前地域での焼き物の生産は、1580年代に北波多で朝鮮人陶工により陶器製品を生産したのが始まりで、その後、各地域で作られるようになりました。さらに、豊臣秀吉の朝鮮出兵により朝鮮人陶工たちが日本に連れてこられ、有田で磁器の原料となる陶石を発見したことから、1610年頃に有田で磁器生産が始まりました。

伊万里市内には安土桃山時代から江戸時代、さらに近代（明治～昭和初期）にかけての窯跡が約80か所あり、その約8割が陶器製品を焼成した窯です。市内で最初に操業したのは、大川町川原にある陶器製品を焼成した1580年代頃の窯で、その後、南波多町や松浦町へ広がったと考えられています。

磁器製品の窯跡は、大川内町の市山（市の瀬）や大川内山に集中しています。特に大川内山では藩窯（佐賀藩直営の窯場）が設けられ、将軍家に献上することを主目的とした鍋島焼が作られました。

古唐津（唐津焼）

江戸時代に肥前地域（佐賀・長崎地域）で焼かれた陶器製品を古唐津と言います。



古伊万里（伊万里焼）

江戸時代に有田・波佐見等で焼かれ、主に伊万里の港から国内外に流通した磁器製品を古伊万里と言います。



鍋島（鍋島焼）

佐賀藩（鍋島家）が将軍家に献上することを主目的として藩窯で製作した特別な磁器製品を鍋島と言います。



●窯跡を守るために

平成17年（2005）頃から平成24年（2012）頃にかけて伊万里市内では、貴重な窯跡を壊して陶片を持ち出し、インターネットなどで売買する悪質な盗掘が多発し、椎ノ峰窯跡群でも何度も被害を受けました。

伊万里市では、この違法行為の対策として、平成19年（2007）に地元、民間、行政による「窯跡保存対策協議会」を設立し、警告看板の設定や盗掘穴の埋め戻しなどの活動を進めました。さらに警察や佐賀県、報道関係者の協力により、近年では発生を抑え込むことができましたが、今後も油断することなく対策を進める必要があります。

地元の文化財は 地元が守る

文化財保護の原則は「地元の文化財は地元が守る」ことです。地元が守るためには、自分の住んでいる地域の歴史や文化を正しく学び、どのような文化財があるのかを知ることが必要です。また、地域の歴史や文化を知ることが地域に対する愛着や地域連帯を深めることにつながります。

南波多町の窯跡や関連の遺跡は肥前窯業史の1ページとして重要な文化財です。地域をはじめ、町全体で、この貴重な文化財を守り、後世に伝えていきましょう。

編集・作成 窯跡保存対策協議会

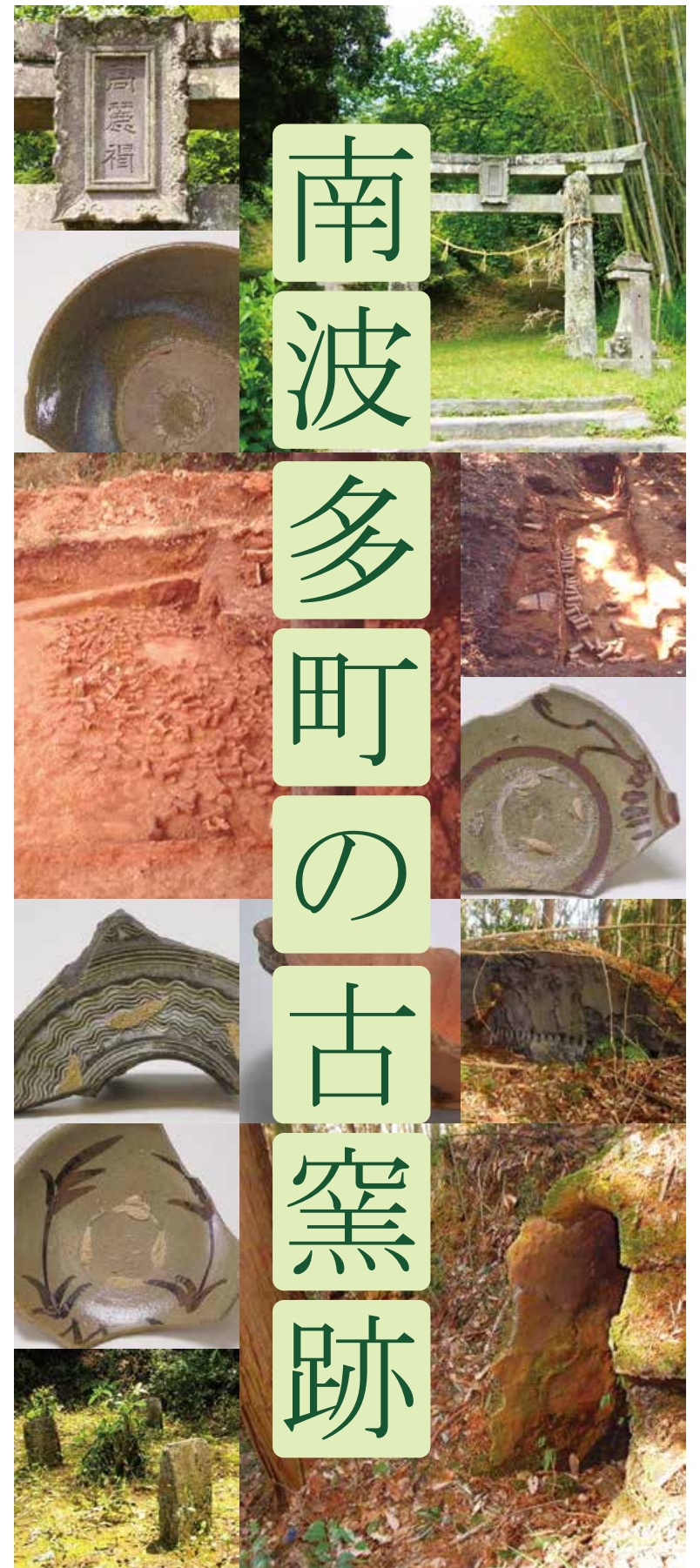
伊万里市教育委員会

協力

南波多町まちづくり運営協議会

発行日

令和2年3月31日



南波多町の古窯跡

●南波多町の窯跡

南波多町は江戸時代には唐津藩領でした。町内には9か所の陶器窯跡が知られています。櫛ノ谷窯跡や大川原窯跡、椎ノ峰窯跡群などは陶磁器関係の美術書にも名前が掲載されるほど有名な窯跡です。

大川原窯跡は1590年代から1600年代に操業したと推定され、藁灰わらばいの釉薬を使った製品を作っていました。椎ノ峰地域には5か所の窯跡があります。古文書では、1630～40年代頃に現在の大川町川原から陶工たちが椎ノ峰へ移って開窯し、その後、唐津藩が將軍家へ献上する焼き物（茶碗）も焼き始めました。盛期には焼成室が20室ある窯が3か所あり、350余りの戸数があったとされています。

古椎新窯跡群は昭和12年（1937）頃まで操業され、現在も当時の窯が残されています。この窯は、江戸時代の窯とほぼ同じ形であり、貴重な窯跡です。

椎ノ峰窯跡群の近くには高麗神社があり、鳥居には、



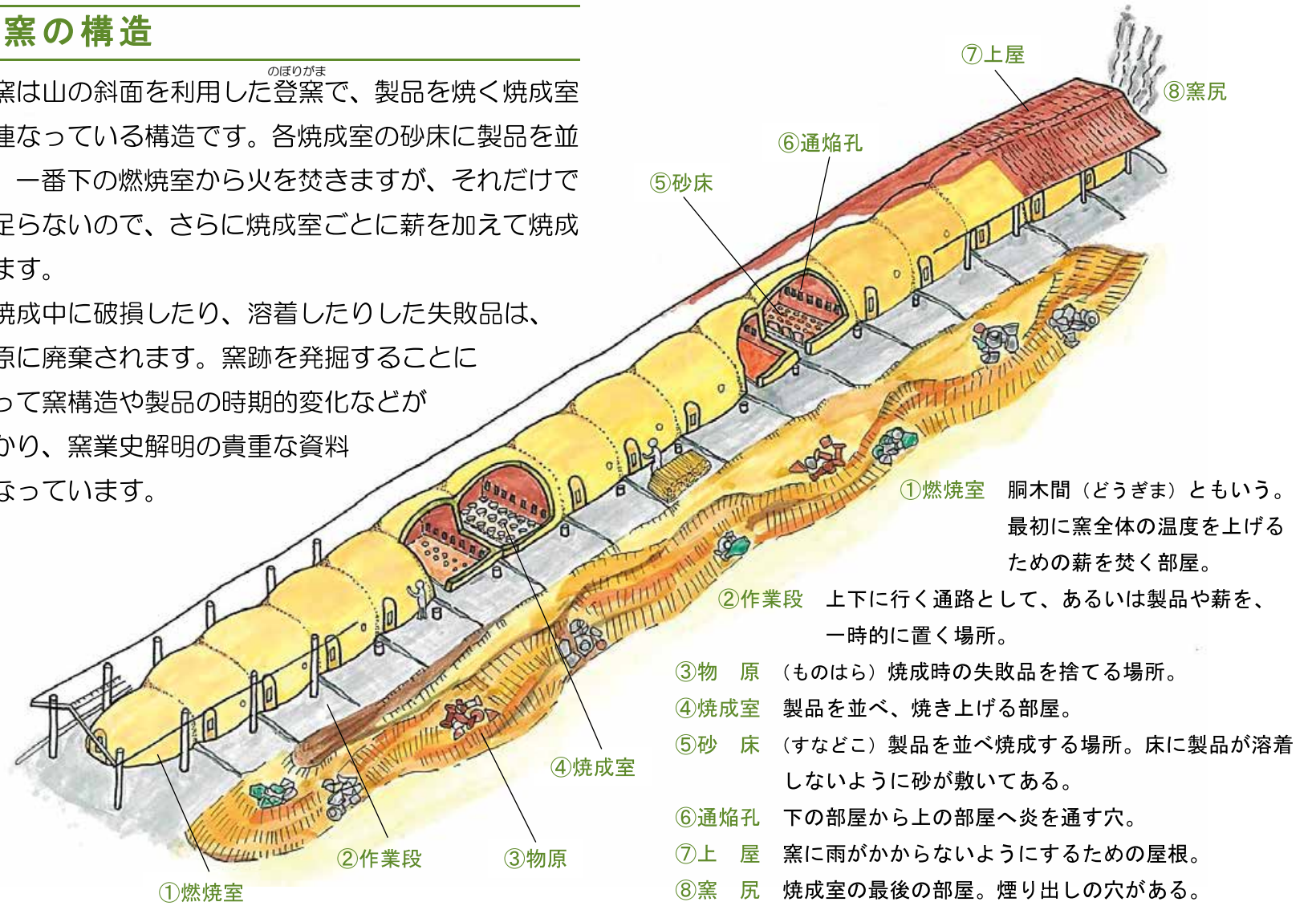
椎ノ峰窯跡群は5～9です。笠椎窯跡の位置は、はっきりしていません。

神社と椎ノ峰の由来が刻まれています。また、窯道具を墓標とした墓もあり、亡くなった陶工を埋葬したといわれています。このように、当時の生活の様子が見えるものも残されているのも特徴の一つです。

●窯の構造

窯は山の斜面を利用した登窯のぼりがまで、製品を焼く焼成室が連なっている構造です。各焼成室の砂床に製品を並べ、一番下の燃焼室から火を焚きますが、それだけでは足りないため、さらに焼成室ごとに薪を加えて焼成します。

焼成中に破損したり、溶着したりした失敗品は、物原に廃棄されます。窯跡を発掘することによって窯構造や製品の時期的変化などがわかり、窯業史解明の貴重な資料となっています。



●窯跡からの出土品

平成元年（1989）に市教育委員会が上多々良窯跡（操業時期 1650年代～1670年代）の発掘調査を行いました。全長は推定で約112mです。この時期の窯跡としては非常に大規模な窯であり、当時の繁栄ぶりを表しています。

上多々良窯跡では呉器手こきでと呼ばれる碗や絵唐津の皿、すり鉢、片口、香炉、花瓶、甕じゅうてんなど多種多様な製品が作られ、さらに、銅や藁灰などを使った各種の釉薬や波状に刻印した溝に白色の粘土を充填させた三島手みしまでと呼ばれる装飾など、多彩な装飾方法が使われています。



碗（呉器手）



皿（絵唐津）



皿（銅緑釉）



皿（三島手）



片口



香炉